

医学研究センター

医学研究センター

片桐 岳信
(センター長)

本学では、毛呂山、日高、川越の各キャンパスを拠点として活発に医学研究が行われている。3つのキャンパスには、先進的な機器を備えた医学研究の共用施設及びその支援施設として、中央研究施設（毛呂山）、中央研究施設日高ランチ（日高）、ゲノム医学研究センター（日高）、およびリサーチパーク（日高）、研究部（川越）があり、本学研究者の独創的なアイデアが、最大の研究成果に結びつくよう支援体制が整えられている。医学研究センターは、本学の研究施設の統合的・効率的運用と研究活動のシステム整備を主な目標として発足し、現在は以下の6部門で構成される。各部門はキャンパスや学部間の境界を取り除いた全学的な人選による部門長、副部門長、部門員で構成され、それぞれの部門が異なる側面から本学の研究活動を支援している。2019年度は、松下 祥前センター長から、片桐岳信がセンター長を引き継いだ。

医学研究センターの各部門は、埼玉医科大学医学研究センター規程に謳われているように、『本学の医学研究を円滑かつ効果的に行い、教育研究上の目的を達成するための基盤整備を図るとともに、当該研究活動に必要な企画立案、管理運営その他の研究支援を統括・推進し、もって本学の研究活動の質的向上及び研究成果の社会への還元に資すること』を目的として活動している。適宜、各部門内で会議を行うだけでなく、センター長と各部門長・副部門長による定期的な運営会議を月に1度開催し、センター全体で情報を共有している。

- 1) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 4) 安全管理部門：RI、DNA、薬物、環境、動物、感染など、研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

研究主任部門では、学内グラント受賞者による研究発表会を主催している。ゲノム医学研究センターでは、毎年、日高キャンパスにおいて「RCGM フロンティアシンポジウム」を開催してきた。令和元年度は、本シンポジウムを全学的なものとするために、会場を毛呂山キャンパスのオルコスホールに移して開催された。特別講演、口演、及びポスター発表により、盛況なシンポジウムとなった。これを受けて、今後、学生を含めて本学の研究者が一同に会し研究についてディスカッションできる「研究の日」を作ることが検討されることとなった。医学部3年生に対して「研究医養成プログラム」への参加を公募し、課外学習プログラムなどを通じて研究医養成活動を展開している。

本学には、研究用共同利用施設として、中央研究施設（毛呂山キャンパス、日高キャンパス）、研究部（川越キャンパス）があり、多くの研究者の活動を支援している。共同利用施設運営部門は、各施設における研究分野ごとの部門、動物実験系、放射線（RI）系、形態系、機能系の部門長、施設長、研究者の委員により構成され、研究設備の整備、研究環境の改善、利用者の利便性、研究支援の向上、等について検討し、それぞれの施設の整備、運営に反映させている。また、「共同利用実験室」と呼ばれる共用実験スペースを管理・運営し、本学で研究室を持たない者や、研究室の構築段階にある者の研究活動を支援している。

研究支援管理部門では、論文投稿の際に提出が義務付けられている論文投稿報告書の管理、学内グラントの募集、審査会の開催、および管理、学外の競争的研究資金の獲得の支援、などを行なっている。学内グラントは、本学において長年行われたストーリー性のある研究を対象とした「丸木記念特別賞」、前年度の文科省科研費が不採択となった課題を対象とする「一般枠」、および、一般枠の中で最も優秀な若手を対象とする「関口記念特別賞」からなる。本学では、学内グラントの他に、「研究マインド支援グラント」として3種類の研究助成が行われている。1つ目は両学部の学生と大学院生を対象とした課外学習プログラムに対する助成、2つ目は両学部における共通部門を対象とした助成、3つ目は科研費や学内グラントを持たない医学部基礎医学系の若手限定助成である。それぞれの研究助成に関する募集要項や過去の助成実績などは、随時、医学研究センターのHPにおいて公表されている。本学には、この他にも保健医療学部のグラント、病院長裁量経費による若手支援グラントなどがある。

安全管理部門では、本学における研究・教育・診療活動に必要な安全管理を行うことを業務とし、以下の6つの分野により構成される。1) 麻薬や向精神薬、農薬の管理を行う薬物分野、2) 研究用の放射性同位元素をRI実験安全委員会と協力して管理するRI分野、3) 実験系廃液及び廃棄試薬の管理を環境安全委員会と協力して行う廃液等環境分野、4) BSL2以上の病原性微生物や、それらが産生する毒物等の管理を病原性微生物等管理委員会と協力して行う感染分野、5) 組換えDNA実験を組換えDNA実験安全委員会と協力して行うDNA分野、6) 実験動物の管理を動物実験安全委員会と協力して行う動物分野。

フェローシップ部門では、「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の募集と選考を行なっている。本奨学金応募者の利便性を高めるため、英語版募集要項の作成や、募集要項の早期の掲示などの改善に取り組んでいる。さらに、令和元年度からは、留学生が大学院在学中は継続して奨学金を受給できるよう改善した。

研究評価部門では、本学研究者の研究業績を登録・集計・公開することにより、本学の医学研究の発展に資することを目的に、平成18年から研究業績データベースシステムを導入・運用している。以来、本学のすべての常勤研究者を対象に研究業績を登録し、国立研究開発法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リサーチマップ (researchmap)」とデータ交換を行い、研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用、大学病院の特定機能病院認定、国際医療センターのJCI受審等のための研究業績の集計・出力に活用している。平成26年度人事考課からは、研究業績の確認にも用いられるようになり、平成27年度人事考課からは提出書類に「研究ポイント」を記載し、研究活動の実績を数値化している。本研究業績データベースには、医学部と保健医療学部をあわせて1,411名の研究者が登録されている（令和2年6月）。